

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年5月19日
【事業年度】	第3期(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)
【会社名】	株式会社T&Dホールディングス
【英訳名】	T&D Holdings, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮戸 直輝
【本店の所在の場所】	東京都港区海岸一丁目2番3号
【電話番号】	03-3434-9151
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 永井 穂高
【最寄りの連絡場所】	東京都港区海岸一丁目2番3号
【電話番号】	03-3434-9151
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 永井 穂高
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成19年6月27日に提出いたしました第3期(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第2 事業の状況

##### 2 保険引受及び資産の運用の状況

(参考)生命保険会社3社のソルベンシー・マージン比率

大同生命保険株式会社

#### 4 事業等のリスク

##### II 直接子会社のリスク

##### 2 生命保険会社3社のリスク

###### (1) 生命保険事業について

###### ①生命保険事業と法的規制

エ ソルベンシー・マージン比率

オ 実質純資産額

#### 7 財政状態及び経営成績の分析

##### (3) 生命保険会社3社の契約業績等(単体)の分析

###### ②その他重要事項

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第2 【事業の状況】

#### 2 【保険引受及び資産の運用の状況】

(参考) 生命保険会社3社のソルベンシー・マージン比率

大同生命保険株式会社

(訂正前)

項目	前事業年度末 (平成18年3月31日) (百万円)	当事業年度末 (平成19年3月31日) (百万円)
ソルベンシー・マージン総額 (A)	1,068,289	<u>1,135,048</u>
純資産の部合計	196,573	229,827
価格変動準備金	47,571	61,585
危険準備金	79,079	80,382
一般貸倒引当金	188	183
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	539,564	510,954
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△4,973	14,582
解約返戻金相当額超過部分	124,207	<u>127,608</u>
配当準備金中の未割当額	8,916	13,240
将来利益	13,655	15,502
税効果相当額	63,505	81,181
負債性資本調達手段等	—	—
控除項目	—	—
リスクの合計額 $\sqrt{R_1^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	170,317	171,889
保険リスク相当額 $R_1$	34,182	33,692
予定利率リスク相当額 $R_2$	20,493	19,197
資産運用リスク相当額 $R_3$	141,649	144,508
経営管理リスク相当額 $R_4$	3,940	3,964
最低保証リスク相当額 $R_7$	684	804
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,254.4%	<u>1,320.6%</u>

(注) 1 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

2 保険業法施行規則の改正により、平成18年度末からソルベンシー・マージン総額の算出基準が一部変更されております(平成17年度末については、従来の基準による数値を記載しております)。

3 「純資産の部合計」は、次の金額を記載しております。

① 前事業年度末は、貸借対照表の「資本の部合計」から、その他有価証券評価差額金、不動産圧縮積立金及び利益処分における社外流出額を控除した額

② 当事業年度末は、貸借対照表の「純資産の部合計」から、その他有価証券評価差額金、不動産圧縮積立金、繰延ヘッジ損益及び社外流出予定額を控除した額

4 「土地の含み損益」は、原則として鑑定評価額、重要性の低い物件等については公示価格を用いて算出

しております。

5 最低保証リスク相当額は、標準的方式を用いて算出しております。  
(以下略)

(訂正後)

項目	前事業年度末 (平成18年3月31日) (百万円)	当事業年度末 (平成19年3月31日) (百万円)
ソルベンシー・マージン総額 (A)	1,068,289	<u>1,134,882</u>
純資産の部合計	196,573	229,827
価格変動準備金	47,571	61,585
危険準備金	79,079	80,382
一般貸倒引当金	188	183
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	539,564	510,954
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△4,973	14,582
解約返戻金相当額超過部分	124,207	<u>127,441</u>
配当準備金中の未割当額	8,916	13,240
将来利益	13,655	15,502
税効果相当額	63,505	81,181
負債性資本調達手段等	—	—
控除項目	—	—
リスクの合計額 $\sqrt{R_1^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	170,317	171,889
保険リスク相当額 $R_1$	34,182	33,692
予定利率リスク相当額 $R_2$	20,493	19,197
資産運用リスク相当額 $R_3$	141,649	144,508
経営管理リスク相当額 $R_4$	3,940	3,964
最低保証リスク相当額 $R_7$	684	804
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,254.4%	<u>1,320.4%</u>

(注) 1 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

2 保険業法施行規則の改正により、平成18年度末からソルベンシー・マージン総額の算出基準が一部変更されております(平成17年度末については、従来の基準による数値を記載しております)。

3 「純資産の部合計」は、次の金額を記載しております。

① 前事業年度末は、貸借対照表の「資本の部合計」から、その他有価証券評価差額金、不動産圧縮積立金及び利益処分における社外流出額を控除した額

② 当事業年度末は、貸借対照表の「純資産の部合計」から、その他有価証券評価差額金、不動産圧縮積立金、繰延ヘッジ損益及び社外流出予定額を控除した額

4 「土地の含み損益」は、原則として鑑定評価額、重要性の低い物件等については公示価格を用いて算出しております。

5 最低保証リスク相当額は、標準的方式を用いて算出しております。

(以下略)

## 4 【事業等のリスク】

### II 直接子会社のリスク

#### 2 生命保険会社3社のリスク

##### (1) 生命保険事業について

##### ①生命保険事業と法的規制

##### エ ソルベンシー・マージン比率

(訂正前)

ソルベンシー・マージンは、大地震や株の大暴落等、通常の見込みを超えて発生するリスクに対応するための財務的な余裕である「支払余力」を意味しております。生命保険会社は、将来の保険金等の支払いに備えて通常見込みできる範囲のリスクについては、責任準備金を積み立てて対応しておりますが、ソルベンシー・マージンは、これを超えるリスクへの備えとなります。ソルベンシー・マージン比率は、「ソルベンシー・マージン総額」(純資産の部合計、価格変動準備金、危険準備金、一般貸倒引当金等)を、通常の見込みを超えて発生するリスクを計量化した「リスクの合計額」の2分の1で割ることにより算出される比率であります。

生命保険会社のソルベンシー・マージン比率が200%を下回った場合には、監督当局から早期に経営の健全性の回復を図るための措置(早期是正措置)がとられることとなります。

生命保険会社3社のソルベンシー・マージン比率については、平成19年3月31日現在、太陽生命1,100.4%、大同生命1,320.6%、T&Dフィナンシャル生命1,189.7%となっております。

(以下略)

(訂正後)

ソルベンシー・マージンは、大地震や株の大暴落等、通常の見込みを超えて発生するリスクに対応するための財務的な余裕である「支払余力」を意味しております。生命保険会社は、将来の保険金等の支払いに備えて通常見込みできる範囲のリスクについては、責任準備金を積み立てて対応しておりますが、ソルベンシー・マージンは、これを超えるリスクへの備えとなります。ソルベンシー・マージン比率は、「ソルベンシー・マージン総額」(純資産の部合計、価格変動準備金、危険準備金、一般貸倒引当金等)を、通常の見込みを超えて発生するリスクを計量化した「リスクの合計額」の2分の1で割ることにより算出される比率であります。

生命保険会社のソルベンシー・マージン比率が200%を下回った場合には、監督当局から早期に経営の健全性の回復を図るための措置(早期是正措置)がとられることとなります。

生命保険会社3社のソルベンシー・マージン比率については、平成19年3月31日現在、太陽生命1,100.4%、大同生命1,320.4%、T&Dフィナンシャル生命1,189.7%となっております。

(以下略)

## オ 実質純資産額

(訂正前)

実質純資産額とは、貸借対照表の資産を基礎として計算した額(有価証券・不動産等について一定の時価評価を行ったもの)から負債を基礎として計算した額(負債の額から価格変動準備金・危険準備金等の額を差し引いた額)を控除した金額をいい、監督当局による早期是正措置において、実質的な債務超過の判定基準として用いられる純資産額であります。実質純資産額がマイナス又はマイナスと見込まれる場合には、金融庁長官は業務の全部又は一部の停止を命じることができます。

生命保険会社3社の実質純資産額については、平成19年3月31日現在、太陽生命8,346億円、大同生命1兆1,096億円、T&Dフィナンシャル生命635億円となっております。

(以下略)

(訂正後)

実質純資産額とは、貸借対照表の資産を基礎として計算した額(有価証券・不動産等について一定の時価評価を行ったもの)から負債を基礎として計算した額(負債の額から価格変動準備金・危険準備金等の額を差し引いた額)を控除した金額をいい、監督当局による早期是正措置において、実質的な債務超過の判定基準として用いられる純資産額であります。実質純資産額がマイナス又はマイナスと見込まれる場合には、金融庁長官は業務の全部又は一部の停止を命じることができます。

生命保険会社3社の実質純資産額については、平成19年3月31日現在、太陽生命8,346億円、大同生命1兆1,095億円、T&Dフィナンシャル生命635億円となっております。

(以下略)

## 7 【財政状態及び経営成績の分析】

### (3) 生命保険会社3社の契約業績等（単体）の分析

#### ②その他重要事項

（訂正前）

（略）

#### b 大同生命

当事業年度の基礎利益は、1,257億円（前期比30.9%増）となりました。また、前事業年度の逆ざや293億円から順ざや83億円に転じました。

ソルベンシー・マージン比率は当事業年度末で1,320.6%（前事業年度末は1,254.4%）となりました。また、実質純資産額は当事業年度末で1兆1,096億円（前事業年度末は1兆623億円）となりました。

（略）

（当連結会計年度末（平成19年3月31日）のソルベンシー・マージン比率の状況）

区分	太陽生命		大同生命		T & D フィナンシャル生命	
	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)
ソルベンシー・マージン比率	1,100.4%	55.2	1,320.6%	66.2	1,189.7%	△722.1

（当連結会計年度末（平成19年3月31日）の実質純資産額の状況）

区分	合算		太陽生命		大同生命		T & D フィナンシャル生命	
	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)
実質純資産額	20,078	1,233	8,346	770	11,096	473	635	△10

（以下略）

(訂正後)

(略)

b 大同生命

当事業年度の基礎利益は、1,257億円(前期比30.9%増)となりました。また、前事業年度の逆ざや293億円から順ざや83億円に転じました。

ソルベンシー・マージン比率は当事業年度末で1,320.4% (前事業年度末は1,254.4%) となりました。また、実質純資産額は当事業年度末で1兆1,095億円 (前事業年度末は1兆623億円) となりました。

(略)

(当連結会計年度末(平成19年3月31日)のソルベンシー・マージン比率の状況)

区分	太陽生命		大同生命		T & D フィナンシャル生命	
	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)	当連結 会計年度末	前期比増減 (ポイント)
ソルベンシー・マージン比率	1,100.4%	55.2	1,320.4%	66.0	1,189.7%	△722.1

(当連結会計年度末(平成19年3月31日)の実質純資産額の状況)

区分	合算		太陽生命		大同生命		T & D フィナンシャル生命	
	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)	当連結 会計年度末 (億円)	前期比 増減額 (億円)
実質純資産額	20,076	1,232	8,346	770	11,095	471	635	△10

(以下略)